

日本見學員得票數

十一月三日正午締切 第十七回

地方別

郵局數

候補者

父母出身地

選舉人

投票人

投票率

(日曜)

二十一日四月廿二年

日本見學員得票數

第三回

智謀
忍耐
譽の眞田

(第百四十三席)

小金井芦洲口演

歌川光舟画



荒川の憤怒

奉行の田中七右衛門もこれは寧人として、左様なことを聽む事も易ならぬ顔でござりますから、彼が爲に却つて踏み殺されし早々に伊達武部の家につてまるまはねばなるまい。然る時は折ちり、斯う述べる。式部不思議の零志も彼方に組成ら説や。さうにだん(一)標を聞き、飛

式部の音が、あまりにも無體であ

麗太郎を狼狽するより、殊に太宰をもじり出でるに

青二才の下男一人は、俺まで底度ひ立てるも

行がぬ。こにくる。其の答へての事、先程よりジラフシらへて勝負は

見たる上半身である。清水船主となりましたる荒川熊藏は

即ち、その下男となつて來た。大う我慢が出来ません。どう

豪傑の荒川熊藏を

式部の肩數難玉が凝製した。

ハサタ式部を以て難玉の

呼び立てなりました。そで脱ぎて、腰に付けてねさきに

元来弓は手で引くにせず、肩で

張り、兩びこんなところに用は

置け、サブ參らう」と、形相親しく

席を離れて立ち出でました。

でも、落み飛んで運作はない拙者

置け、兩びこんなところに用は

置け、サブ參らう」と、形相親しく

席を離れて立ち出でました。

だ、伊達式部に後悔するなと申し

置け、兩びこんなところに用は

置け、サブ參らう」と、形相親しく

席を離れて立ち出でました。

了、伊達式部に後悔するなと申し

置け、兩びこんなところに用は